

令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)  
 事業内容報告書の概要

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)

毎年、年度初め(4月)及び年度末(3月)に市内各校の学校長、教務担当、センター校の養護教諭及び市教育委員会等を構成員とした運営協議会を実施している。年度初めに、その年度における指導計画を説明し、そこで聴取した意見や要望を反映させたいうで承認を取り、年度末には指導計画の進捗及び達成状況等を共有し、課題や改善点を洗い出すことにより、次年度以降の指導体制のブラッシュアップを図ることができている。

2. 具体的取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築

岩倉東小学校を小学校センター校とし、学校生活適応指導(集中初期指導)及びプレスクールを実施し、担当者会及び研修会を毎週1回開催した。また、南部中学校を中学校センター校とし、事務局として日本語教育指導の中心的役割を担う。さらに日本語教育担当教員は所属校以外の学校へも巡回指導を行った。

(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施

市独自の様式による「児童生徒の記録」「指導に関する記録」「日本語・教科評価表および指導計画表」からなる「個別の指導計画」を、対象児童生徒全員に対して作成した。また、令和2年度中に評価シートを刷新し、より明確に日本語と教科の習熟度が示せるものとなった。

ステップ別指導とモジュール方式によって、個々の学力に応じた指導を実施するとともに、ステップ別評価を実施。さらに、評価結果をもとに指導計画を修正することで、指導と評価の一体化を図る。

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

外国人児童生徒に対する学習や生活等の指導や授業の補助、外国人児童生徒の保護者との連絡及び通知文等の翻訳業務等を行うため、市内小中学校に日本語教育指導員及び日本語教育支援員を配置する。

岩倉南小学校:日本語教育支援員1名

岩倉東小学校:日本語教育指導員1名

南部中学校:日本語教育指導員1名

(12) 成果の普及

今年度は外部に向けて公開指導を実施できなかったため、岩倉東小学校の研究中間発表の際に公開指導を行った。また、県内の指導主事対象の外国人児童生徒教育研修で、岩倉市の取組を発表、報告した。さらに、近隣の小中学校から視察や問い合わせがあり、日本語教室の運営の仕方等を共有した。

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築

○成果

室長を中心とした指導体制を構築し、指導内容や指導方法の共通化を図ることで、市内各校での指導の質を保障することができた。また、学校生活適応指導（集中初期指導）実施校を設置することで、学校生活への早期順応を促すことができた。さらに、外国人講師の配置により、母語を交えた生徒への学習指導やサポートだけでなく、保護者会や電話連絡の際に通訳を介して家庭と学校との連携が滞りなくできた。

○課題

今年度はコロナウイルス感染拡大防止の観点から公開指導や情報交換会を中止にせざるを得なくなり、担当者間の授業や指導を参観・協議しあう機会が少なかった。担当者の授業力向上のためにも、工夫して授業研究をしていく方法を探していく。

(4)「特別の教育課程」による日本語指導の実施

○成果

個別の指導計画の作成と評価結果を踏まえた見直しにより、対象児童生徒の日本語力を効果的に高めることができた。また、ステップ別指導とモジュール方式を組み合わせることで、個々の日本語力に応じた指導を行うとともに、所属学級で学んでいる教科学習の効果的な習得につなげることができた。

○課題

児童生徒の習熟度が多岐にわたるため、ステップ別指導は年々難しくなっている。

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

○成果

言語だけでなく、日本の生活習慣等についても指導することができるため、日本の学校生活に慣れるための一助となった。また、日本語の指導ばかりでなく、母語能力が落ちないようにバランスのとれた指導ができるため、児童生徒にとっては、日本語と母語の両方を話すことができるという強みになり、将来的なキャリア教育にも繋がる。

○課題

限られた予算や時間の中で効果的に指導を実施するため、より効率的な指導方法を模索していかなければならない。また、どの職員でも高い質の指導ができるよう、教職員と会計年度任用職員との連携を今以上に密に取り組んでいきたい。

(12) 成果の普及

○成果

これまで蓄積してきた実績を公開したところ、たいへん参考になったという多くの声を聞いている。

○課題

今年は公開できなかったが、やはり年に一度は岩倉市日本語教室公開を実施したい。日本語教育に携わる様々な機関や教員とつながる貴重な機会であり、自分たちの取組や指導を振り返り研究するよい機会になっている。

日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒の割合	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	100%	100%	%	%	%	%
うち、個別の指導計画の指導目標が達成できた児童生徒の割合	100%	100%	%	%	%	%

4. その他(今後の取組予定等)

今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で日本語教室公開が中止になるなど、例年とは異なった対応を多く求められた。次年度以降、感染症対策を十分に取ながら必要な指導が行き渡るよう、慎重かつ緻密に計画を立てていく必要がある。

※枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。